

編集後記

平成 14 年 4 月、福山大学工学部の生命系 3 学科（生物工学科、応用生物科学科と海洋生物工学科）からなる、福山大学生命工学部が設立された。この設置に伴い、それまでの工学部の研究年報「工学研究」への生命系学科の研究業績の掲載することを終了し、新たに「生命工学部研究年報」を創刊した。今年度、創刊 10 周年の節目を迎え、創刊 10 周年記念号（第 10 号）を刊行するに至った。

この 10 年、応用生物科学科は生命栄養科学科に、海洋生物工学部は海洋生物科学科に改称されたが、生命工学部 3 学科の研究活動は、本年報の第 1 号から第 10 号に掲載されているように、創刊当時の活発な研究活動を維持し、現在に至っていることがわかる。

近年、少子化の影響で、生命工学系研究科の大学院生が減少傾向にあり、研究環境も次第に恵まれた状態とは言えなくなっている。生命工学部の活力を維持するためには、活発な研究活動の継続が必須である。生命工学部研究年報は、来年度から新たな始まりと見なされる第 11 号へと号を重ねていく。これを支える研究活動の一層の活発化を切に願うものである。

この 10 年、生命工学部研究年報の編集に携わったのは、生物工学科（藤田泰太郎、H14～23 年度）、応用生物科学科・生命栄養科学科（山本英二、H14-19 年度、井ノ内直良、H20～23 年度）、海洋生物工学科・海洋生物科学科（中田篤男、H14 年度、沖増英二、H15～18 年度、小谷知也、H19～21 年度、高村克美、H22 年度、満谷 淳、H23 年度）である。

藤田 泰太郎
井ノ内 直良
満谷 淳